2012 年 作文コンテスト 中上級の部 優勝

欧州連合の将来　　テレザ ルトフスカー　　カレル大学

EU は 1993 年に経済的な同盟を目的として作られたヨーロッパ諸国の連合である。国の大きさにも政体にもかかわらず、27 か国の国が加盟している。チェコも 2004 年に加盟国になった。EU に加盟したくない国もあるが、ほとんどのヨーロッパの国はやはり加盟国になりたいとみえる。EU 設立の目的は本来強い経済大国の米国と均整をとり、加盟国の国家経済を助力することであった。しかし、最近は経済的な結び付きだけではなく、政治的な関係も強くなったようである。EU はたくさんの長所があるが、短所もあると思う。それについてもっと具体的に書きたいと思う。さらに EU の将来についての予想をしたいと思う。

EU は経済的な長所がやはりたくさんあるが、専門家ではない私にとってそれはかなり難しいことである。そのため説明したい長所と短所は私のような普通のヨーロッパ人の生活に関係があることである。私たちにとって一番重要な EU の長所はパスポートを持たずに EU 内の外国へ旅行できることである。私も最近よく旅行するので、それがとても便利なことだと実感した。もっと早く、もっと快適に旅行できることはやはり EU の人々にとって一番重要な長所だと思う。そしてそれに加えて、自由に EU 内の国で働くことも可能である。このようなことは特に若者からすると、大切なことだそうである。

そしてそのほかの旅行するにあたっての長所は、私が好きではないユーロという EU の通貨である。チェコにはまだコロナという通貨があるので、チェコ人にとってユーロはそんなに便利なことではないが、例えばスロバキア人にとっては便利なことだと聞いたことがある。チェコ人はいつも自分の国に対して誇りを持っているので、ユーロは便利であるが、チェコ人はユーロが好きではなく、コロナを使い続けたいと思っている。
しかし、EU には長所だけではなく、短所もある。この段落に書くことは一般的なことではなく、私自身の意見にすぎないことである。欧州連合は経済的な連合として設立されたが、最近では政治的な決定をすることも多くなった。例えば欧州連合の政府や憲法について討論している。最初からの目的ではなかったので、そのようなことはたくさんの人にとって不快なことだと思う。しかしこの EU の同質化は悪いことだけだとは言えない。同質化のいい点を表すのに「自分の国の国境が広がる」という表現がある。しかし一つの EU の通貨、一つの EU の政府、一つの EU の憲法は当たり前の進歩だと言われているが、もしこの進歩が続いたら、未来にはヨーロッパの全土は米国のように一つの大国になってしまうであろう。それはドイツやフランスのような大きな国にとっては悪いことではないが、チェコのような小さな国の文化や言語が消えてしまうかもしれない。ヨーロッパの一番面白い点はたくさんの全く違う文化を持った国から成り立っていることである。それがなくなったら、凄く残念なことだと思う。
チェコ人として自分の国が好きで誇りを持っていることはもちろんである。私が予想した未来は予想にすぎないことであるが、もし同質化がこのように続いたら、これは予想から現実に変わってしまうかもしれない。それを止めるために EU は元の経済的な連合に戻ることが必要だと思う。